

SAPPORO

厚別南・青葉地区の 義務教育学校について

2022年7月22日（金）
札幌市教育委員会



- I 義務教育学校とは
- II 厚別南、青葉地区における義務教育学校の整備について
- III これまでのご質問から(Q&A)
- IV 最後に



Ⅰ 義務教育学校とは

札幌市では、令和4年4月から全市立小中学校で「小中一貫した教育」を全面実施しています。

札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る

札幌市の「小中一貫した教育」推進の四つの視点

1
9年間を通した
子どもの学びの
つながり

2
子ども理解・
生徒指導の
連続性

3
教職員の
連携・協働

4
家庭や地域
との関わり

小中一貫

した

教育



多様な

全市の共通性と学校・地域の
独自性を生かした取組により、
教育の質を高める。



さっぽろっ子 小中一貫したつながりのススメ



「小中一貫した教育」は、札幌らしい「教育のススメ方」です。

小学校と中学校が互いにつながり、学び合いながら、学校・家庭・地域が互いにつながり、同じ目線に立ちながら、途切れることなく、全ての子どもに寄り添い、見守り、育みます。

子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるように。



学校・家庭・地域のつながりの中で、連続性をもって子どもを育みます。

さっぽろっ子「学び」のススメによる一貫した習慣づくり

9年間の**学び**をつなげます

分かる・できる・楽しい授業による連続性のある教育の推進

子どもの**育ち**をつなげます

小・中の指導のよさを取り入れた切れ目のない子どもの育ちの支援

4つの視点から札幌らしい教育を進めます



互いの顔の見える関係づくりによる小中の教職員の連携の強化

目指す子どもの姿の共有などによる地域とともにある学校づくりの推進

小中の**教職員**がつながります

学校・家庭・地域がつながります



札幌市では、令和2年2月に「札幌市小中一貫した教育基本方針」を策定しました。詳しくはこちらを御覧ください。



札幌市教育委員会



学校・家庭・地域が互いにつながり、

まほうのかいわで

9年間の系統性・連続性のある教育を実現し、子どもの知・徳・体の調和のとれた育ちの一層の充実を図ります。

9年間の**学び**を つなげます

分かる・できる・楽しい授業による
連続性のある教育の推進

子どもの**育ち**を つなげます

小・中の指導のよさを取り入れた
切れ目のない子どもの育ちの支援

4つの視点から 札幌らしい教育を進めます

互いの顔の見える関係づくりによる
小中の教職員の連携の強化

小中の**教職員**が つながります

目指す子どもの姿の共有などによる
地域とともにある学校づくりの推進

学校・家庭・**地域**が つながります



Ⅰ 義務教育学校とは



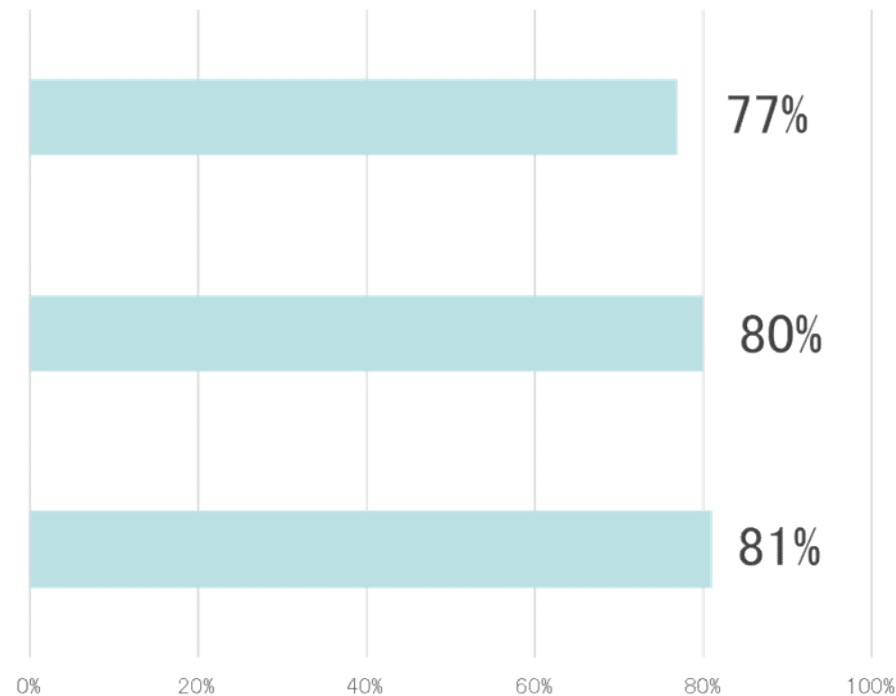
小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

① 9年間を通した子どもの学びのつながり

授業が理解できると答える児童生徒が増えた

学習意欲が向上した

学習習慣の定着が進んだ



Ⅰ 義務教育学校とは



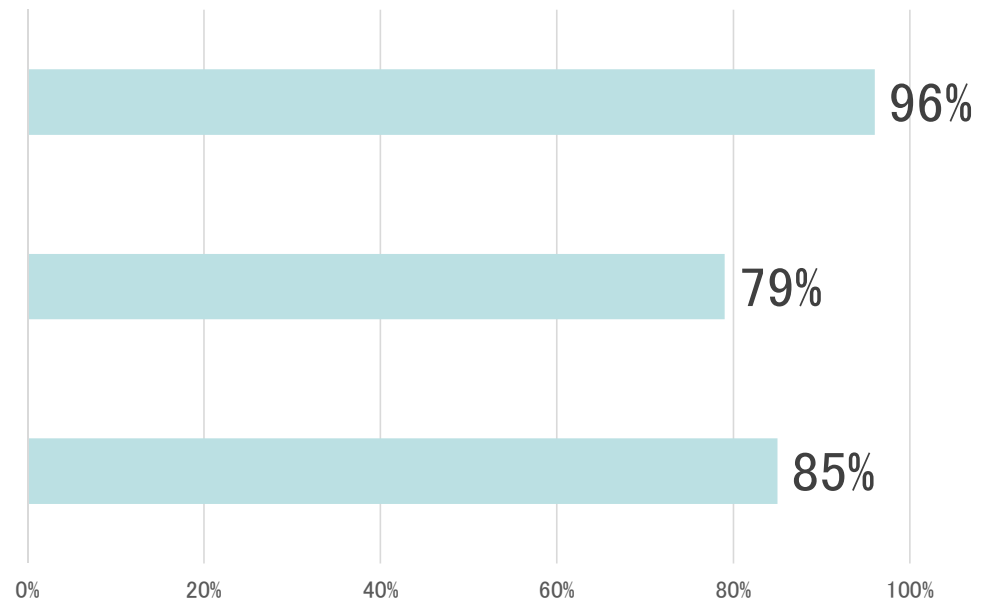
小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

② 子ども理解・生徒指導の連続性

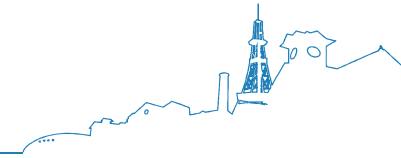
中学校への進学に不安を覚える児童が減少した

児童生徒の自己肯定感が高まった

児童生徒の学校生活への満足度が高まった



Ⅰ 義務教育学校とは



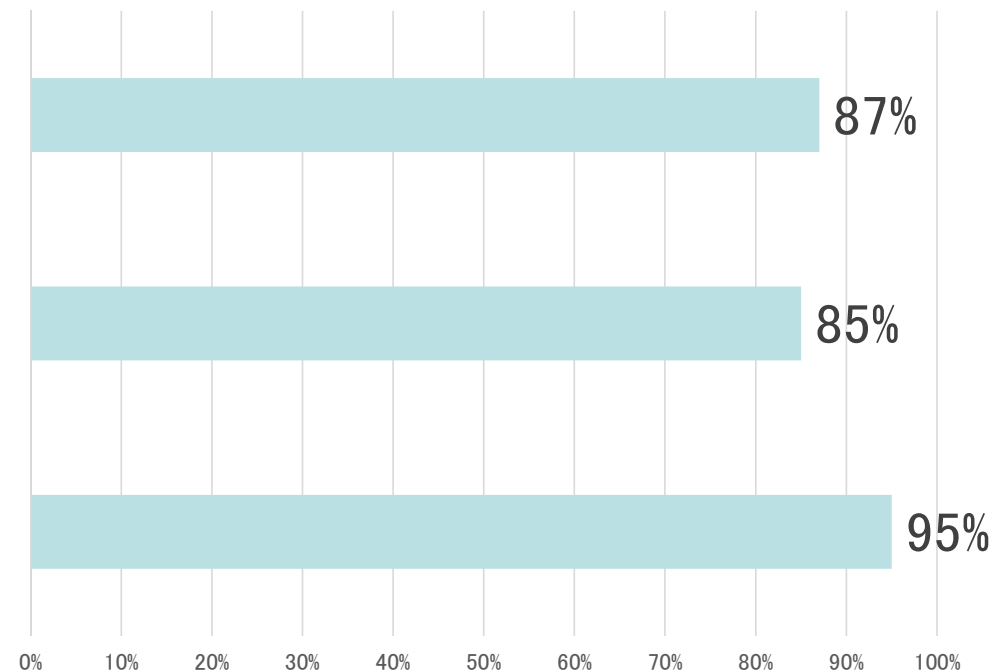
小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

③ 教職員の連携・協働

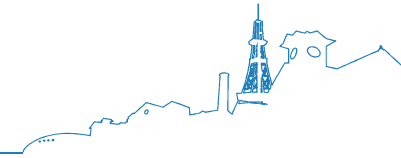
教員の教科指導力の向上につながった

教員の生徒指導力の向上につながった

小・中の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった



Ⅰ 義務教育学校とは



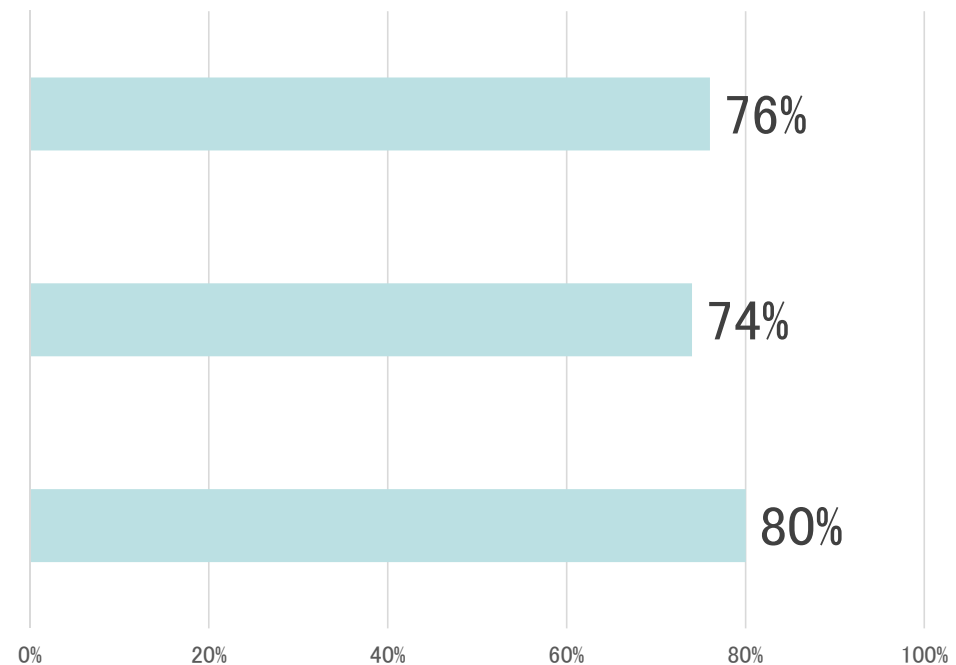
小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

④ 家庭や地域との関わり

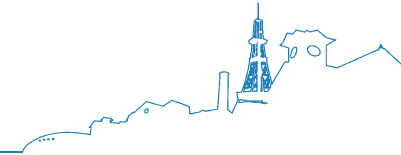
保護者の学校への満足度が高
まった

保護者との協働関係が強化さ
れた

地域との協働関係が強化され
た



I 義務教育学校とは



小中一貫教育制度について

札幌市の小中一貫した教育(制度によらない一貫教育)

中学校区を基礎単位としてパートナー校を設定し、
目指す子ども像を共有するなど4つの視点に基づいた取組を推進

小中一貫校(平成28年度に制度化)

法整備された仕組みであり、9年間を通じた教育課程の編成や系統的な教育を目指す学校

併設型小学校・中学校

組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態であり、それぞれに校長、教職員組織を有する学校

義務教育学校

1人の校長の下、1つの教職員組織で義務教育9年間の系統性を確保した教育課程を編成、実施する学校

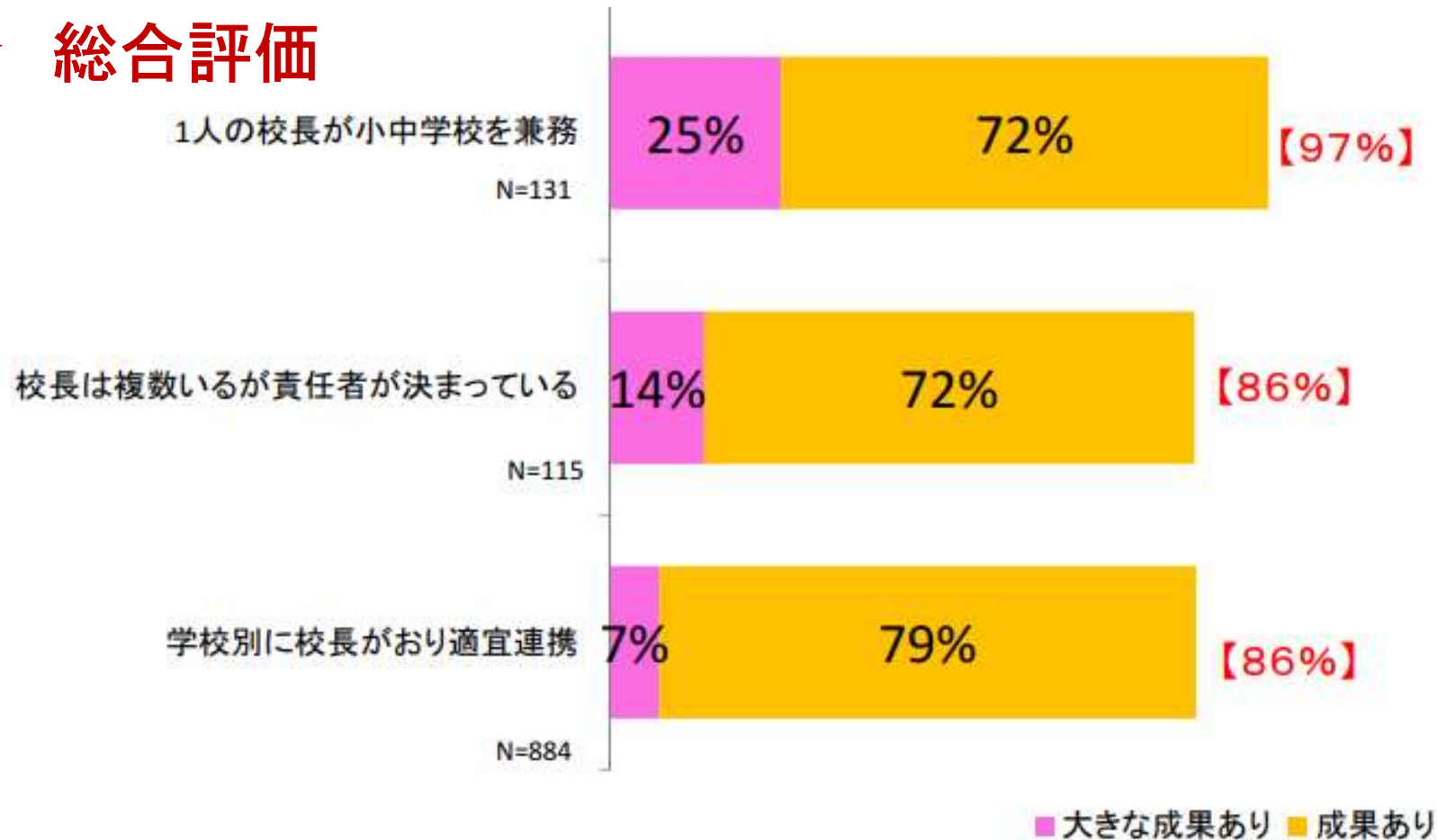
どちらの学校であっても施設の形態(一体型、隣接型、分離型)は問わない。

I 義務教育学校とは



校長の体制×小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

★ 総合評価

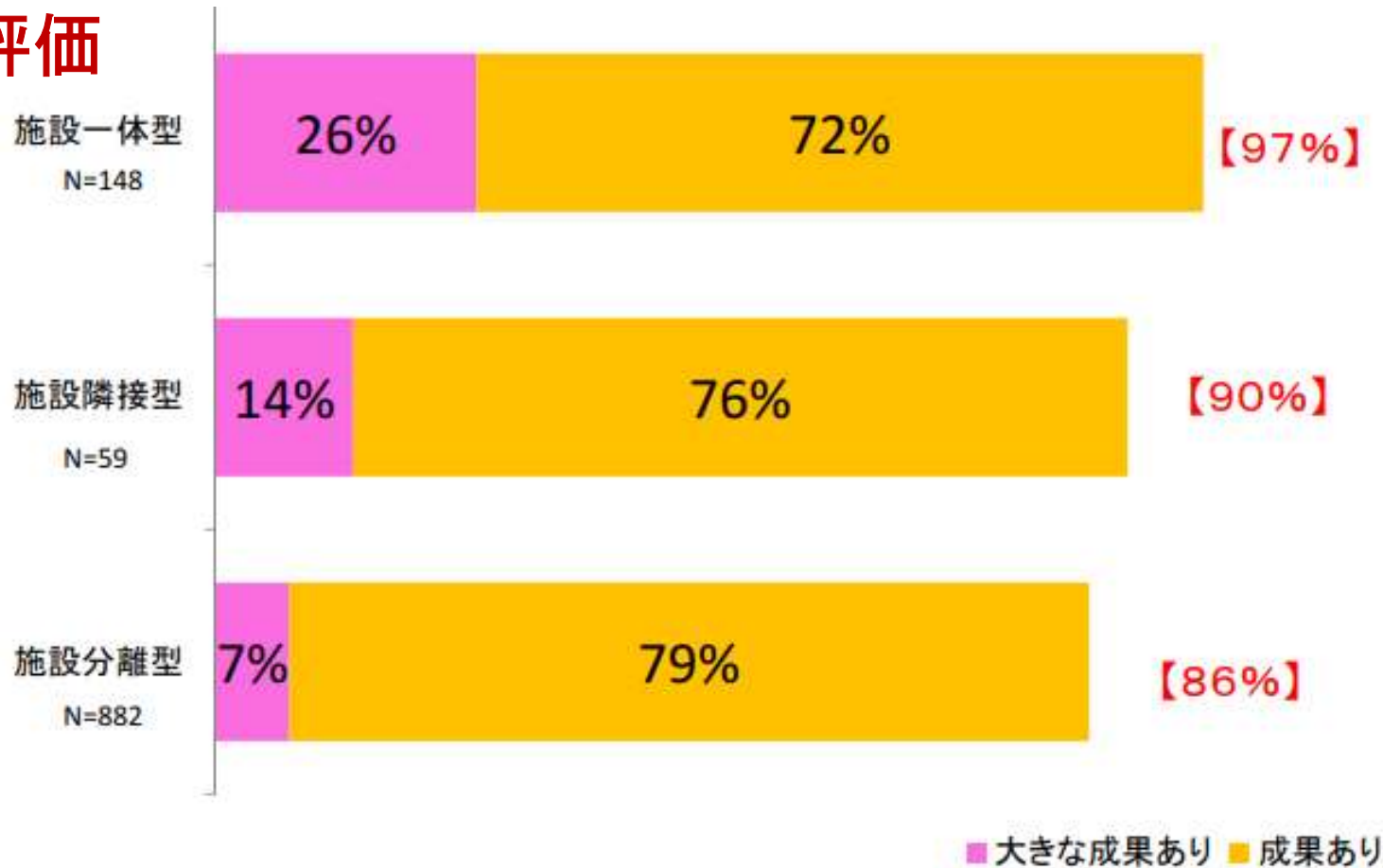


Ⅰ 義務教育学校とは



施設形態 × 小中一貫教育の効果(文部科学省調べ抜粋)

★ 総合評価



I 義務教育学校とは

以上を踏まえて、

- 通学区域が概ね同一校区であること
- 小中一体の校舎である、
または小中一体の校舎整備を行うこと

○札幌市においては、一定の条件を満たす地域については、**組織が一つで校舎も一体である義務教育学校**を設置することとしました。

○さらに札幌市で設置する**義務教育学校で蓄積する取組事例**を全市の学校へ積極的に伝えることで、「**小中一貫した教育**」の更なる推進につなげます。

I 義務教育学校とは



学年の区切り(指導区分)

義務教育学校の効果を最大限発揮するためには、小中学校段階の円滑な接続ができることが非常に重要と認識。

※前述の文部科学省調査においても6-3以外の指導区分の方が小中一貫教育の効果が高いともされています。

→札幌市立の義務教育学校においては、小中にまたがる学年の区切りを設けて、小中一貫した教育の更なる推進を目指します。



I 義務教育学校とは

学年の区切り(指導区分)

小学校でも中学校でもない、小学校1年生段階から中学校3年生段階まで一体のものとして運営する学校。

★ 他都市の一例(厚別南・青葉地区については、これから検討)

前期課程						後期課程		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
1年～4年(最初の区切り) ・4年をリーダーとした縦割り活動 ・4年生までの学習発表会を実施				5年～7年(接続する区切り) ・5年生段階から教科担任制の一部実施 ・委員会活動、部活動 ・5年次からの50分授業			8・9年(最後の区切り) ・学校のリーダーとしての活動	

I 義務教育学校とは



課題と対応策

○課題① 小6段階でのリーダーシップ育成

⇒ 他都市においては指導の区分を4-3-2に分け、各段階でリーダーシップを育てるなどの工夫を行っている事例があります。

○課題② 転出入者への学習指導上の対応

⇒ 義務教育学校においては、中学校段階の授業の先取り(指導内容の入替え)も制度的には可能ですが、転出入者への対応を考慮し、札幌市では行わないこととします。

I 義務教育学校とは



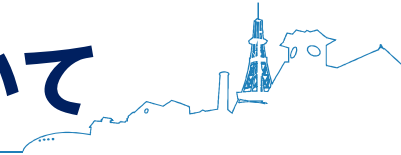
課題と対応策

○課題③ 幅広い学年の子どもが同じ校舎で過ごすことに伴う 生徒指導上の対応

⇒ 他都市視察では、幅広い異年齢集団による活動を推進することが、学校全体の生徒の落ち着き(問題行動の激減)につながっている事例を目の当たりにしました。

先行事例も踏まえ、十分に学校とも相談しながら、より良い学校づくりを目指してまいります。

II 厚別南・青葉地区における校舎の整備等について



校舎整備について

	新札幌わかば小学校	青葉中学校
建築年次	<ul style="list-style-type: none"> 校舎～昭和 53 年 体育館～昭和 53 年 R1～2 年度に 大規模改修実施	<ul style="list-style-type: none"> 校舎～昭和 56 年 体育館～昭和 56 年
児童生徒数	<令和 4 年度> 402 人（13 学級、特別支援 2 学級） <令和 9 年度推計> 366 人（13 学級、特別支援 2 学級）	<令和 4 年度> 217 人（6 学級、特別支援 3 学級） <令和 9 年度推計> 186 人（6 学級、特別支援 2 学級）

II 厚別南・青葉地区における校舎の整備等について



○新札幌わかば小学校の校舎等を活用して、必要な施設を増築することで、義務教育学校を設置します。

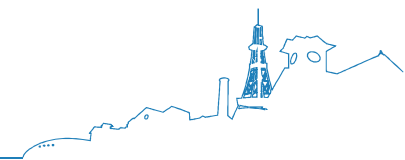
○新たに設置する校舎には児童会館を併設します。

○現状の想定では、最短で以下のスケジュールを見込んでいます。

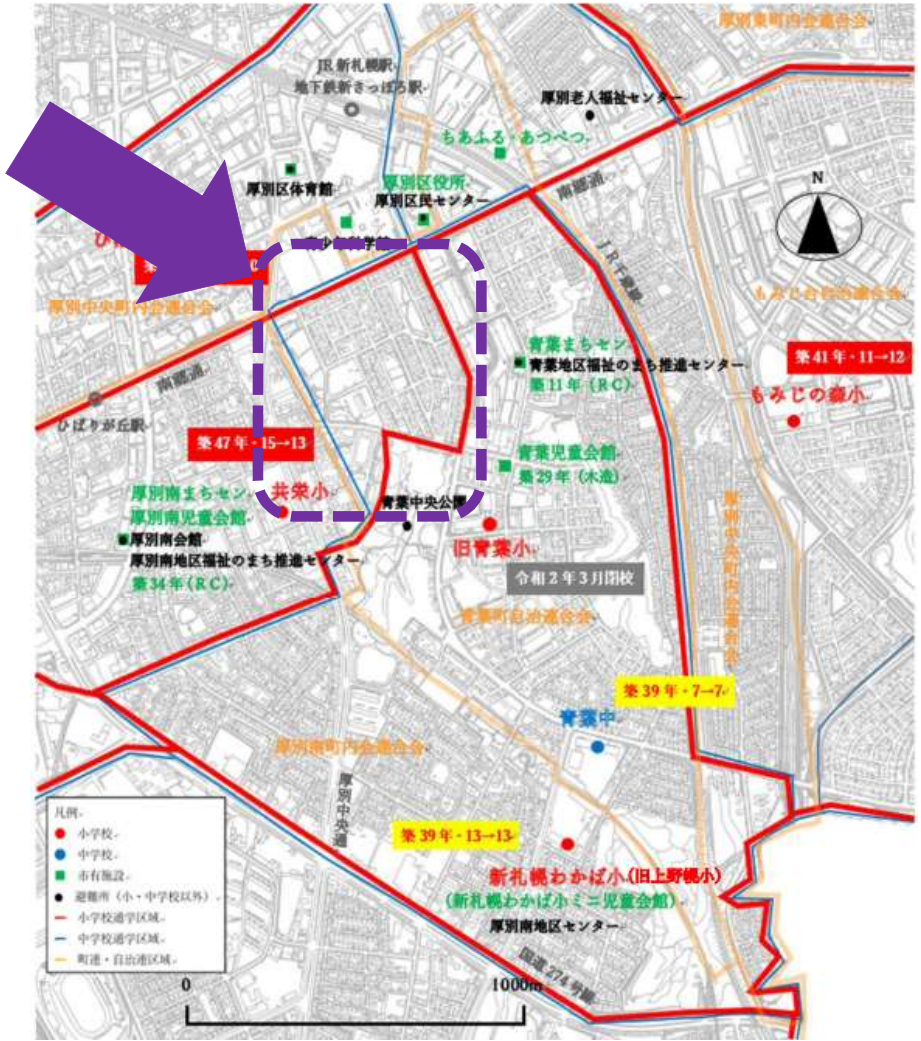
- R5 基本設計
- R6 実施設計
- R7～8 校舎等建設
- R9 開校



II 厚別南・青葉地区における校舎の整備等について



○一部共栄小学校から青葉中学校へ進学する区域があるため、一部通学区の見直しを検討予定です。



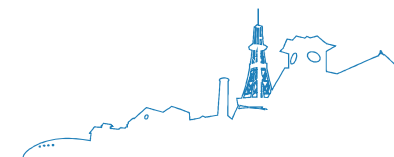
III これまでのご質問から(Q&A)



Q.入学式や卒業式はどうなりますか

A.一つの学校になることから、入学式が1回、卒業式が1回となります。ただし、学年段階の区切りを踏まえ、児童生徒の新たな段階に入る自覚を高めるような行事等を行うことも可能ですので、今後検討してまいります。

III これまでのご質問から(Q&A)



Q.制服や学校行事はどうなるのでしょうか。

A.現時点では決まっていません。これから学校と相談しながら検討していきます。

III これまでのご質問から(Q&A)



Q.義務教育学校になることで先生が減るのではないのでしょうか。

A.義務教育学校は、小中を一つの学校としますが、教員配置は通常の小中学校と同様、小学校段階、中学校段階それぞれの児童生徒数に応じて算出することから、先生が減ることにはなりません。

IV 最後に



義務教育学校のメリット

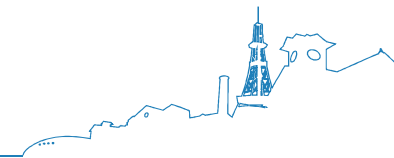
(1)一つの学校として設置することから

- ・9年間の学びの区分を設定を含め柔軟にデザインできる
- ・児童生徒一人一人を9年間見守ることができる
- ・一つの教職員組織で一体となった運営をしやすい
- ・家庭や地域と9年間安定した関わりをもちやすい

(2)一つの校舎で設置することから

- ・児童生徒の幅広い異学年交流が日常的にできる
- ・小中教員が過度な労力なしに連携でき、様々なメリットを生かしやすい

IV 最後に



厚別南・青葉地区の皆様と
仕組みも中身も充実した魅力的な義務教育学校へ

御理解・御協力を何卒宜しくお願い致します